



背景・課題

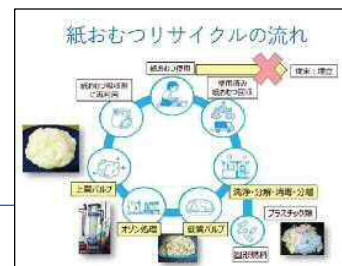
- 平成2年に最終処分場を建設した当時は、分別せず全てのごみを埋立処分していたが、ごみは増え続け、**約15年で埋立処分場が満杯になる将来試算を算出**
- 検討を重ね、**ごみ焼却施設をつくらず、リサイクル推進によるごみ埋立の減量化、最終処分場の延命化を選択**
- そこで、平成7年に容器包装リサイクル法の成立や、ごみ処分の維持費等を勘案し、旧志布志町で**平成11年度から本格的にごみ分別がスタート**
- その後、分別品目を増やし、平成16年には、**生ごみの分別収集を開始し、生ごみを使って堆肥を作るリサイクルがスタート**
- この結果、**約8割の埋立ごみの減量化に成功**し、JICA等の協力を経て、『志布志モデル』として、フィジーやバヌアツなどの海外でも研修を実施
- 現在は、**埋立ごみの更なる減量化と埋立処分場の延命化 5R※推進によるSDGsへの貢献**を目指している



※5R: Refuse (リフューズ)、Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Repair (リペア)、Recycle (リサイクル) の頭文字「R」をまとめた総称

事業内容

- 平成17年度から、市単位で**18年連続全国1位**のリサイクル率(令和4年度76%)を維持
- 現在、民間企業と連携した**紙おむつから紙おむつへの水平リサイクルを実現**
循環センター設置による資源ごみ集合収集で利便性向上に取り組んでいる



この事業のベネフィット（感謝の気持ち）

- **ごみ分別によって、生まれ変わった商品をご提供** など
※時期により、提供可能商品が異なります